

平成21年度 学校評価最終報告書

石川県立小松工業高等学校

重点目標	具体的取組	現 状	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	集計結果	分析および次年度の扱い
1 常に授業改善に取り組む、生徒の学習意欲を喚起する方策を講ずること、自ら学習に意欲を育む。	<p>わかる授業を心がけ、基礎的な知識・技能の習得を図るとともに、テスト前自習講座等生徒の学習意欲を引き出す指導方法や授業時間の確保のためのベル着等方策を確立する。</p> <p>また、公開授業については事後の教科学科会で検討し、授業改善について意識改革の徹底を図る。</p>	<p>公開授業を各人年2回実施し、互いに授業を見せ合い研鑽に努めている。また、「授業評価アンケート」を年2回実施し、授業改善の基礎資料としている。また、教室を透明ガラスとし、美化意識と緊張感を持って授業に臨むよう改修を行った。</p>	<p>授業は</p> <p>A とても工夫されていて、分かりやすい</p> <p>B 分かりやすい授業が多い</p> <p>C 分かりやすい授業が少ない</p> <p>D ほとんどわからない</p>	A + B の合計60%	<p>目標とした70%には届かなかった。教師一人ひとりが授業改善に努めるとともに、生徒の意欲を引き出す創意工夫が必要である。また、各教科会での共通理解が必要である。</p>
			<p>自主的な学習時間（1時間）が</p> <p>A ほとんど達成できた</p> <p>B だいたい週に2～3回達成できた</p> <p>C 週に1回程度達成できた</p> <p>D ほとんど達成できなかった</p>	A + B の合計52%	<p>昨年度実施したアンケートより3ポイント上昇するものの家庭学習時間を含めて学習時間の確保が求められる。家庭連絡や補修体制などの充実を図っていきたい。</p>
			<p>基礎的な知識・技能の習得について</p> <p>A 十分満足できる</p> <p>B だいたい満足している</p> <p>C あまり満足していない</p> <p>D 満足していない</p>	A + B の合計75%	<p>生徒自身は自らの習得状況を厳しくとらえている面もあるが、基礎的な学習に対する意識もあり、知識・技能についての理解はおおむね充足している状況であるが、さらに基礎基本の徹底に努めたい。</p>
	<p>資格取得の指標となるジュニアマイスターポイントを明示し、更なる向上を目指す。また、PTAのバックアップ事業として取り組む。</p>	<p>高度な資格取得者を褒める観点から掲示して全体に啓発している。また、工業科での目標資格の年間スケジュール設定や合格率を高める指導の工夫を行う。</p>	<p>資格取得に向けて</p> <p>A 一生懸命努力した</p> <p>B だいたい努力した</p> <p>C あまり努力しなかった</p> <p>D 努力しなかった</p>	A + B の合計63%	<p>目標の70%には届かなかったが、努力姿勢はうかがえる。授業と連携して資格取得についてさらに情報提供するなかで、意欲を高めていきたい。</p>
			<p>目標にした資格が</p> <p>A ほとんど取れたので、十分満足している</p> <p>B かなり取れたので、だいたい満足している</p> <p>C 少ししかとれなかったので、あまり満足していない</p> <p>D ほとんどとれなかったので、不満足である</p>	A + B の合計48%	<p>満足度が上がらないのは合格率の伸び悩んだ結果であるにとらえる。次年度は資格取得に対するわかりやすいフローチャートを提示したい。</p>
	<p>ものづくり教育を推進するとともに、課題解決のための思考力・判断力を養い、生徒が主体的に取り組む事業を設定し、全国有数の技術者を育成する。</p>	<p>5年連続で、高校生ものづくり全国大会に出場し、旋盤作業部門では3位入賞した。日本一を目指している。</p>	<p>ものづくり大会において</p> <p>A 全国大会で上位入賞または複数出場することができた</p> <p>B 全国大会に出場することができた</p> <p>C 北信越大会に出場することが出来た</p> <p>D 県大会出場どまりであった</p>	C 段階	<p>今年度は上位大会での十分な成果を上げることができなかった。ものづくり大会は生徒の学習意欲向上にもつながるイベントであることから、次年度はさらに充実した取り組みとしたい。</p>
<p>ものづくりをとおした専門科目の学習内容に</p> <p>A 大変満足している</p> <p>B だいたい満足している</p> <p>C 少し満足している</p> <p>D あまり満足していない</p>			A + B の合計73%	<p>工業高校の特色ある学習活動としてもものづくりを意識した学習活動は生徒の意欲を引き出すうえでも重要であり、ほぼ満足している状況がある。</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>厳しい雇用情勢の中では、有資格者や基礎的な知識・技能をもった生徒の育成が非常に重要であり、生徒が意欲を持って学習に取り組み、成果があがるような工夫ある指導が求められる。今後とも教師の授業改善に取り組んで成果を出してほしい。また、進学する生徒もいることから上級学校進学を視野に入れた学習指導も必要と思われる。</p>				
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>専門教科の授業内容についても教科会等で充実した授業実践に向けて検討していきたい。また、シラバスを見直す中で授業計画、実践、評価を充実させ、生徒にとっての「わかりやすい授業」の実践に努めたい。また、ものづくりや資格取得では達成感を体感させ、学習意欲の向上につなげていきたい。</p>				

2	部活動の活性化を図り、保護者と連携をとりながら、基本的な生活習慣の確立を行う。	①	部活動を通し、コミュニケーション能力の育成や感動を体感させ、充実感の高まりと上位入賞を目指す。また、正門ディスプレイにて成果をPRし、あわせて学校活性化の情報発信をする。	9割以上の加入率だが近年実績を残す部に限られており、総体ポイントが男子上位になるよう生徒職員一丸となって取り組むよう共通認識を持つ。	部活動に A 大変満足している B だいたい満足している C 少し満足している D あまり満足していない	A + B の合計64%	入部加入率は4月91%、10月は3年生引退を受けて70%となったが新人大大会後も積極的に取り組んでいる状況がある。部活動での一人ひとりの活躍の場を設けるなどさらに内容の充実を図っていく。
					全国大会（県代表）出場の部が A 3部（同好会等含む）以上 B 2部（同好会等含む）以上 C 1つの部（同好会等含む）のみ D 全くない	全国大会出場5部	学校活性化の一つの指標として部活動の上位大会での活躍が欠かせないものとなっている。今年度は団体・個人合わせて5部の出場となったが、まだまだ可能性のある部もあり、成果を期待している。
		②	部活動は、健康増進だけでなく、基本的な生活習慣の確立や、メンタル面の充実も期待できる。この共通理解での取組が、学校全体に波及していくことを全生徒に啓発する。	部活動単位による校舎内朝掃除や通学路ボランティア清掃をおし、自律性の育成と基本的な生活習慣の確立を徹底していきたい。	学期ごとの遅刻欠席ゼロ20日のクラスが A 全クラスあった B 12クラス以上あった C 6クラス以上あった D なかった	C段階	卒業後に実社会に出る生徒が多いことから遅刻など時間に対する意識を高めておく必要がある。今年度は後半特にインフルエンザ等の影響も大きくC段階となった。今後とも遅刻欠席指導に積極的に取り組みたい。
					生活の乱れによる生徒指導件数が A 15件未満であった B 20件未満であった C 25件未満であった D 25件以上であった	A段階	生徒指導件数は少ないものの、服装容儀指導にはさらに工夫が必要と考えている。一部の問題行動が学校のイメージにもつながることから基本的な生活習慣や規範意識の向上に今後ともしっかり取り組んでいく。
		③	本校の伝統的な行事である駅伝大会やマラソン大会をおし、体力の向上とクラスの団結力をやしなう。	学校敷地周回コースの2周タイムを計測し、基礎体力と持久力向上につなげる。	春秋の駅伝コースタイムを比較して向上した生徒が A 70%以上であった B 60%以上であった C 50%以上であった D 50%未満であった	C段階	本校の伝統行事でもあるが、現業への就業状況を考えると、体力向上は欠かせない要素である。C段階ではあるが、3年生は部活動を引退しているなかで、50%の生徒がタイムアップしており、目標がやや高く設定しすぎた感もある。
学校関係者評価委員会の評価			加賀地区での本校の部活動成果はまずまずのものがあ、さらに期待するところである。高等学校の特色ある教育活動としての部活動に対する県民の興味関心も高く、注目している活動であり今後の活躍を願っているが、先生方のたゆまぬ努力と日々の指導には敬意を表するものである。また、卒業後の実社会でも部活動を通じた体力向上や規範意識の向上、さらには良好な人間関係の構築が求められているのではないかと。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			本校における部活動は学習指導と同様、重要な教育活動と位置付けている。大会等の結果にも注目していきたいが、結果のみならず生徒一人ひとりの満足度を向上させる工夫ある指導も必要であると考えている。そのためには、指導者講習会を設定したり、部活動全体の活性化にむけてトレーニング講習会等実施していきたい。また、生活指導については日々の指導を教職員が一体となって取り組んでいきたい。				

3	地域貢献活動や情報発信を積極的に行い、保護者、地域社会及び企業との連携を深め、生徒の可能性を生かした進路実現を目指す。	①	生徒の能力や適性を発見するため、企業見学や企業実習の年間計画を早期より示し、進路指導の充実を図る。一学期に企業ごとの採用計画情報を把握し三者懇談の資料とする。夏休みには応募前見学の徹底を図り、企業開拓と合わせて重点的に取り組む。また、企業の教育力を活かし勤労観や職業観の育成を図るとともに就業意識を高める	適性に応じた進路を主体的に決定できるよう、3年間を見通した就職・進学指導を行っている。2学年のインターンシップは全員参加を目指す。また、保護者への見やすい情報提供をしていきたい。	進路関係の情報提供に A 大変満足している B だいたい満足している C 少し満足している D あまり満足していない	A + B の合計77%。	次年度も厳しい求人状況が考えられ、今後とも適切な進路状況の情報提供が必要である。進路便りをさらに充実させるなど、今年度以上に積極的に取り組む必要がある。
		②	生徒指導について、保護者との連絡を密にするとともに、校内指導体制について情報の共有化を図るため連絡体制の見直しを行う。	入学式、PTA総会、地区懇談会等において基本的な生活指導の方針を説明し、保護者の理解を求める。	校則について A 十分理解し、お子様が守るよう話し合っている B だいたい理解し、お子様が守るよう話し合っている C 少し理解しているが、話し合っていない D あまり理解していない	A + B の合計81%	キャリア教育の重要性が叫ばれていることから自らも就く職業はもとより、職業意識の向上には今後とも積極的に取り組んでいく。今年度は県教委の就職支援事業も効果があり、就職希望者の100%達成ができたことは評価に値する。
		④	地域との関わりの中で、教育活動の充実を図る。また、地域と一体となって通学路等の危機管理について共通認識を持って対応する体制を構築する。	AED固定設備の製作や地域チャレンジ事業で小学生・幼稚園への出前授業等ものづくりを活かして地域に貢献している。学校行事においても多くの来校者があり、学校の様子を見ていただくと共に学校の特色をアピールしている。また、外部の方が生徒に指導・助言する機会も多く求めたい。	地域貢献に A 大変努力した B だいたい努力した C 少し努力した D あまり努力しなかった	A + B の合計96%	工業高校として課題研究の中で木場潟浄化の取り組みやAED保管装置の製作等による地域貢献はもとより吹奏楽部の出前演奏など積極的にかかわることができた。今後とも地域にアピールしていきたい。
					学校行事で参加者の増加が前年度比で A 20%以上であった B 10%以上であった C 例年並みであった D 減少した	C 段階	今年度はインフルエンザ流行の影響で学校祭や体育行事の縮小が余儀なくされ、十分な参加状況が得られなかったが、全体を通してほぼ例年並みであった。
				外部講師の指導・助言（講演会等含む）について A 講話内容が今後の学習にとっても参考になり、大変満足している B 講話が難しかったが、興味がわき大体満足している C 部分的に参考になり、少し満足している D 内容が分からなく、あまり満足していない	A + B の合計39%	多くの外部講師を招聘しての講演や職業指導が行われているが、生徒一人ひとりのニーズや興味関心が多様化している中で満足度を上げることは非常に難しい状況がある。しかし、キャリア教育の充実としてさらに生徒への意識向上のために取り組んでいきたい。	
	学校評価委員会の評価		学校活性化のためには保護者をはじめ、地域との連携は重要な要素であることから学校の情報を積極的に発信していただきたい。また、本校はものづくりの学校として教育活動のかたちが見えるところも多いので、工業高校としての地域連携の在り方をさらに検討していくことも必要である。				
	学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		地域に開かれた学校を目指しており、様々なアプローチによって地域に発信していきたい。地域貢献の場も多様な形で存在しているので一つひとつを検討しながら丁寧に対応していきたい。学校のPRのための広報活動の充実も必要となっている。地域の関係団体をはじめとして、加賀地区を中心とした中学校にも情報提供していきたいと考えている。				